

6月度 月例研修会

「矢田丘陵の歴史散歩」 西谷 範子

6月14日(火)。天気予報はちょっと外れて、空は少し雲に覆われていたが、今回の行程は最後までこの天候に助けられた。



集合場所
の丸山橋に
集まった参
加者は23
人。
今回の担当
は歴史文化

クラブで、歴文の例会も兼ねている。ハイキングを楽しみながら矢田の郷の寺社、史跡も覗こうという企画である。

9時20分出発。初めに富雄丸山古墳の墳丘の周りをまわる。南北径102m、高さ12mの円墳で今は公園になっている。知らなければ古墳と見えないような自然のたたずまいである。墓の主は分からないが石器、銅器、鉄器の武器や農機具、玉製品などが出土して、京都国立博物館に保管されている。

ここから遊びの森に向けて、木立の中の緩やかな登りに入る。コシアブラ、タカノツメ、藤などの木々や灌漑用のため池などがあり、かつて里山利用されていたことがうかがえる。ウグイスがけたたましく警戒音を発している。

歩きやすく涼しい道だがやはり登りは汗ばむ。ミニ休憩を経て30分で遊びの森下ノ池へと出る。池の亀やカルガモをながめて、矢田丘陵を南に歩く。勾配は少しあるが、ここも日蔭の道である。檜枯れが散見される。

峠を下る頃から足元が悪くなる。前日に雨が降ったこともあり、すべらぬようにゆっくり、ゆっくり。今日の行程でこの数分間が要注意の道であるため、案内に「ストック」と書いておいたのだが、それがかえって厳しいハイキングと用心された向きがある。

誰もすべらず転ばず、10時55分東明寺に到

着。舎人親王が母の持統天皇の眼病平癒を謝し、建立した。こじんまりした本堂に重文の薬師如来、地蔵菩薩、毘沙門天、吉祥天が祀られており、この期間はちょうど御開帳されていた。軒下の象の彫り物の色彩があざやかに残っている。境内の沙羅の木が今を盛りと白い大きな花をたくさんつけている。

ここから矢田の郷へ下りて、早苗たなびく田園風景の中を歩く。道端の野草も日本古来のものが多く残っている。喜ばしいことである。

この田んぼの中に「伝承邪馬台国想定地・三の矢塚」の石碑が建っている。古事記の饒速日命(ニギハヤヒノミコト)伝説の場所である。

天照大神の命を受けた饒速日命は70人を超す大軍を天の磐船に乗せて天空を飛び、この地に降臨する際、空から3本の矢を同時に放った。その3本目の矢が落ちた場所とのことで、郷の名の矢田はここからきている。

宮居は二本目の矢が落ちた所に作られ、矢田坐久志玉比古神社として祭神に祀られている。12時前に神社に到着。本殿は春日造りで重文であるが、創建時は宏壮美麗を極め、その勢力は大きなものであったらしい。

ここで昼食後、矢田寺に向けて矢田丘陵に行く。30分で矢田寺の本堂横に到着。紫陽花の期間のみ入山料500円。23名でも団体割引はなし。紫陽花はちょうど8分咲きで雨上がりの曇り空に、赤、青、白の大手まりが鮮やかな見頃である。矢田寺は地蔵菩薩が本尊だが、境内の味噌なめ地蔵は口のまわりにべったり味噌が塗ってあっていささかグロテスクである。

沢山の紫陽花の間をぐるぐる巡って楽しむ。この季節のみ出ている臨時バス14時35分に乗り、15時前に郡山駅にて解散。

ハイキングの道中と言い、紫陽花の見頃と言い、ちょっと曇った日本晴れで最適の天候であった。全員完歩し、お疲れさまでした。

